

【道徳科提案】

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

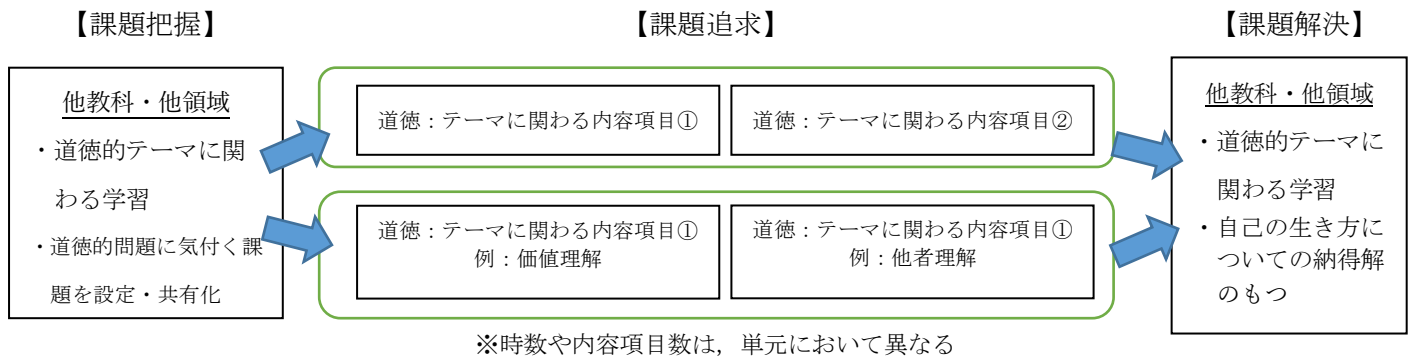
道徳科の本質

道徳科は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間としての他者と共によりよく生きることができるときの基盤となる道徳性を養う教科である。子どもがよりよい生き方を実現していきたいという思いや願いを持ち、将来様々な場面に出会った時、その状況に応じて主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うことができる内面的資質を育てることが大切である。そのために、自分との関わりで考えること、多面的・多角的に考えることを道徳科の授業の中で大事にしていく。

道徳科の目標及び育みたい探究力と省察性

道徳科の目標	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
育みたい探究力	自分と友達の間での感じ方や考え方を比べながら自己のよりよい生き方について追求する資質・能力。
育みたい省察性	自らの道徳的価値理解について再度問い直し、自己のよりよい生き方について考えを深める資質・能力。

道徳科における探究的な学びのイメージ



探究力と省察性を育む指導

よりよく生きるための基礎となる道徳性を育成するためには、よりよい自己の生き方について探究する「探究力」と自ら探究を調整・改善しながら進めるための「省察性」を育む必要がある。

【探究力を育むために】

他教科他領域と関連した単元を構成し、単元に関わる道徳的問題に気づき、課題を設定・共有化することは、ねらいとする道徳的価値を一人一人が自分の問題として捉え、自己のよりよい生き方について追求しようとする「探究力」につながる。また、一つの道徳的テーマについて、複数の内容項目複数時間扱いや同一内容項目複数時間扱い等、単元形式による道徳科授業にすることにより、多面的・多角的に考えようとしたり、道徳的価値に関わる考え方を深めたりすることで、問題場面に出合った時は、様々な道徳的価値を基に考え、その状況にふさわしい答えを導き出すことができる。

【省察性を育むために】

道徳科の1時間毎と単元の途中での定期的なふりかえりを行う時間を設ける。道徳科の授業では、「今のわたしはどうだろう…」「これから…」等、これまでの自分とこれからの自分のよりよい生き方について考えることができるようにする。単元の終末では、学習課題にこれからの自己の生き方について自分なりの納得解がもてるようにする。